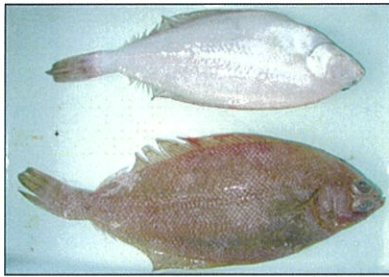


ミギガレイ (地方名：ニクモチ)



生態

- 年齢・成長：オスに比べメスがより大きく成長します。
- 成熟・産卵：満2歳から産卵活動に加わり、4歳以降にはすべての個体が産卵活動に加わります。産卵期は10月～翌年2月で、11～12月が盛期です。
- 分布・移動：北海道南部以南の日本各地に分布し、福島県沖では主に水深100～300mに分布します。産卵に伴い深淺移動します。
- 食性：多毛類、甲殻類が主体です。

ミギガレイの成長(年齢起算日は1月1日)

年齢	オス		メス	
	全長(cm)	体重(g)	全長(cm)	体重(g)
1	11.7	16.7	13.3	18.0
2	15.5	40.9	17.2	40.7
3	18.2	67.0	20.3	69.0
4	20.1	90.4	22.8	99.5
5	21.4	109.4	24.8	129.8
6	22.3	124.1	26.4	158.2

漁獲の動向

漁獲量は平成17年から平成20年にかけて増加していましたが平成21年には減少しました。震災後は平成24年から試験操業で水揚げされ、令和4年の漁獲量は48トンで、震災前5年平均の約24%でした。漁獲金額は平成12年以降、減少傾向にあり、平成16年から50百万円前後で推移しました。令和4年の漁獲金額は約8百万円で、震災前5年平均の約17%でした。

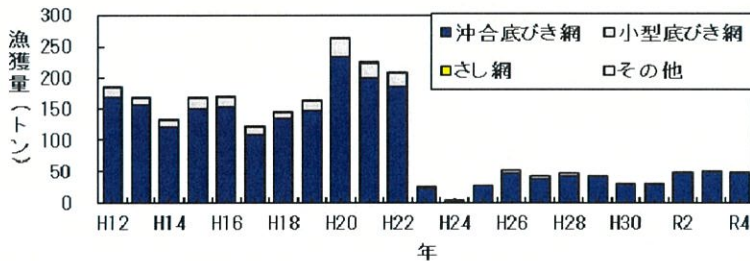


図1 ミギガレイの漁業種類別漁獲量の推移

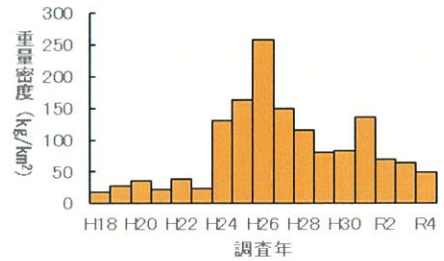


図3 調査船調査におけるミギガレイの重量密度

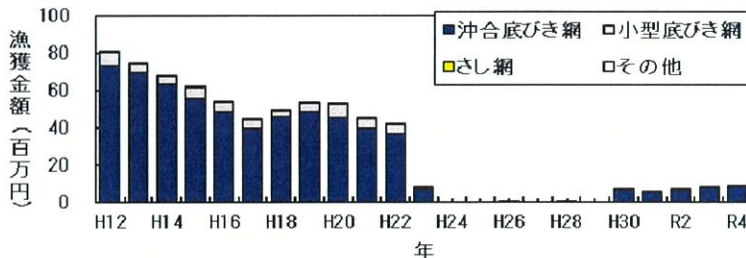


図2 ミギガレイの漁業種類別漁獲金額の推移
※H25～29は相対取引のため、漁獲金額データなし

資源の状態

- 国による令和2年度資源評価調査報告書によれば、太平洋北部系群の資源水準・動向は低位・横ばいでした。
- 調査船調査の重量密度は、平成26年にかけて増加し、その後減少傾向で推移しています。

資源の水準：低位
資源の動向：横ばい

現在実施されている管理策

ヤナギムシガレイを対象とした禁漁区の効果が及んでいると考えられます。

今後考えられる管理策

市場価値が高い大型魚を中心に利用し、市場価値が低い小型魚(未成魚)を保護することにより、親魚までの生き残りを高める必要があります。